

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立港中学校

令和8年4月

目 次

	頁
様式 1 (総括シート)	
1. 学校運営の中期目標	3
2. 中期目標の達成に向けた年度目標	4
3. 本年度の自己評価結果の総括	5
様式 2 (目標別シート)	
最重要目標 1 安全・安心な教育の推進	6
最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上	8
最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実	11
様式 3 学校関係者評価報告書	12

大阪市立港中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 学力の充実においては「自立した個人として生き抜くために必要な学力の定着」を目標とする。基礎学力の向上は本校の課題である。研究授業を取り入れた授業改善の研修、ICTの活用を含む授業改善を通じて基礎学力を向上させる必要がある。
- 体力の充実については「いかなる状況においても力強く生き抜くために必要な体力向上」を目指す。本校は全国的に見ても体力は高水準であり、保健体育の授業および部活動、学校行事などに積極的に参加している成果である。
- 徳力の充実については「人とのつながりを大切にする社会性の構築」・「規範意識の醸成」を重点に、「いじめのない(SNSを含む)安全・安心な学校」を目指す。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 不登校生徒・愛着、発達障がいのある生徒への対応を丁寧に行い、すべての生徒にとって「学ぶ喜びと幸せ」を追求する学校づくりを推進する。
- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 「自立した個人として生き抜くために必要な学力の定着」と「いかなる状況においても力強く生き抜くために必要な体力向上」を目指し、個に応じたきめ細かな指導・支援を行う学校づくりを推進する。
- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を56%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、男女ともに前年度より1ポイント向上させる。(令和7年度男子体力合計点全国比1.15、女子体力合計点全国比1.11)

【学びを支える教育環境の充実】

- 1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に取り組む学校づくりを推進する。
- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。
- 「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を30%以上にする。(昨年24%):1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない
- 「ゆとりの日」を月1回設定・実施する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 98%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
※前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が改善された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。
※改善とは、次の状態にあたる。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択)
 1. 出席日数が増えた。(学校内外で ICT 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定を含む)
 2. ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 3. 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。
- 生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 68%以上にする。
- 生徒アンケートにおいて「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%(昨年 46%)以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 80%(昨年度最も肯定的な「好き」と回答した生徒は 53.7%)以上にする。
- 全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を 0.96(昨年 0.87)以上にする。
- CEFR A1 レベル(英検 3 級)相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 50%(昨年 49.2%)以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 一人一台端末稼働率 80%以上の日を授業日数の半数以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限(月 45 時間)に関する基準を満たす教職員の年間の割合を 60%にする。(R7:58%)
- 長期休業中における閉庁日を土日祝日を含め連続 5 日以上を設定する。
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 76%以上にする。(R7:75%)

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立港中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだともいますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を98%(昨年96.9%)以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○ 生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに肯定的に回答する生徒の割合を90%(昨年85.7%)以上にする。</p> <p>○ 生徒アンケートにおいて「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いに肯定的に回答する生徒の割合を94%(昨年93.9%)以上にする。</p> <p>○ 生徒アンケートにおいて「自分には、良いところがありますか」の問いに肯定的に回答する生徒の割合を80%(昨年82.3%)以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部)</p> <p>○いじめ・問題行動への初期対応を重視し、組織的な解決にあたる。</p> <p>指標 アンケートにて「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答する生徒を98%以上、「ルールを守っている」と回答する生徒を96%以上とする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部)</p> <p>○関係諸機関や地域の諸団体との連携をさらに強化し、不登校生への対応を進める。</p> <p>指標 不登校生の数を3学年で43人以下にする。(昨年度44名)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】(人権・道徳委員会)</p> <p>○人権・道徳教材の活用</p> <p>・全教員が道徳の授業を通して、道徳心・社会性の育成を図る。</p> <p>指標 感想文やアンケートを実施し、意見を交流し合う学習を各授業を1回以上行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】(進路委員会)</p> <p>○個に応じた進路指導</p> <p>一人一人の適性に応じた進路目標を持たせてそれを達成させる。</p> <p>指標 各学年とも、年間2回以上、生徒を対象とした進路学習を行う。</p> <p>3年生の100%を志望校に合格させる。</p>	

<p>取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】（特別支援委員会）（特別支援学級担任者会）</p> <p>◆ 毎月の学年会、職員会議等を活用して特別支援学級在籍生徒と通級生徒の実態把握、全教職員間の共通理解を深める会を実施する。</p>	
<p>指標 学期に1回以上、全教員参加の特別支援委員会を開催する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(様式2)

大阪市立港中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%(昨年46%)以上にする。○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。○ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を男女とも65%(昨年62%)以上にする。○ 全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を0.96(昨年0.95)以上にする。○ CEFR A1 レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%(昨年49%)以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】(学力・体力向上委員会)</p> <ul style="list-style-type: none">● 授業規律の確立<ul style="list-style-type: none">・授業始め・終わりのあいさつ、チャイムでの入室・着席の徹底を図る。・忘れ物調べを行い、授業の規律を確立する。・学習環境の整備を生徒自身が率先して行えるようにする。 <p>指標 ・学年での入室指導、授業遅刻のチェック、各教科での忘れ物・宿題提出のチェック・連絡などを毎時間行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】(学力・体力向上委員会)(国語科)(英語科)(数学科)</p> <ul style="list-style-type: none">● 個に応じた指導<ul style="list-style-type: none">・少人数授業または教員の入り込みを設定し、生徒個々に応じた指導を行う。・教育支援員のサポートを受け、放課後学習を行う。・ICTを活用した学習を充実させ、生徒達の興味を高め、取り組む意欲向上に繋げる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・3年英語において、各クラス週1時間少人数習熟度別授業を実施し、基礎・基本の定着を図る。・3年数学において、各クラス週1時間少人数習熟度別授業を定着・標準クラスに分けて実施	

<p>し、定着クラスに数学科の教員が入り込む。加えて、各クラス週1時間数学科の教員が入り込み、個々に応じた指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年英語において、各クラス週1時間習熟度別授業を実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・2年数学において、各クラス週1時間、数学科教員の入り込みを設定し、生徒個々に応じた指導を行う。 ・1年数学・英語において、各クラス週1時間、習熟度別授業を実施し、基礎、基本の定着を図る。 ・1年数学において、各クラス週1時間、数学科の教員による入りこみを設定する、生徒個々に応じた指導を行う。 ・1年国語において、各クラス週4時間、ティームティーチングでの授業を実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・2年国語において、各クラス年35時間、ティームティーチングでの授業を実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・漢字検定を1年に1回実施する。(1、2年生) ・英語検定を1年に1回実施する。(希望生徒) 	
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】(学力・体力向上委員会) (体育科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業規律の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動能力の向上(毎時間のトレーニングや柔軟性の向上に取り組み、新体力テストの総合得点で全国を上回る。) ・体育理論の理解と促進(体づくり運動の意義と行い方を実践で学ぶ。) ● 体育的行事の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会、水泳大会など、学校の体育的行事を実施し、運動することの楽しさを体験させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年での入室指導、授業遅刻のチェック、各教科での忘れ物・宿題提出のチェック、連絡などを毎時間行う。 ・体育大会(10月実施)、水泳大会(3年7月、1・2年9月実施)など、学校の体育的行事を実施し、運動することの楽しさを体験させる。 	
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】(健康教育部)</p> <p>○健康教育の実施</p> <p>全学年において「性教育」の実施、また学年の生徒の実態に合わせて健康教育を実施する。</p>	
<p>指標 全学年において、健康教育の取組みをそれぞれのテーマにおいて1回以上行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(様式2)

大阪市立港中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一台端末稼働率 80%以上の日を授業日数の半数以上にする。 ○ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上とする。 ○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、教員の時間外勤務の上限(月 45 時間)の基準を満たす教職員の年間の割合を60%にする。 ○ 長期休業中における閉庁日を土日祝日を含め連続 5 日以上を設定する。 ○ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 76%以上にする。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】(ICT委員会)</p> <p>○情報共有・研修</p> <p>校内 ICT 研修を行い機器の使い方や有効的な使用方法の情報共有を行う。</p> <p>-----</p> <p>指標 校内研修を年2回以上行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】(安全衛生委員会)</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、教員の時間外勤務の削減にむけ日々の働きかけを行う。</p> <p>-----</p> <p>指標 教員の時間外勤務の上限(月 45 時間)の基準を満たす教員の割合を昨年度より増加させる。(昨年度:61%)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】(安全衛生委員会)</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、日々、ワークライフバランスを職員に意識させる働きかけを行う。</p> <p>-----</p> <p>指標 長期休業中における閉庁日を土日祝日を含め連続 5 日以上を設定する。 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 76%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

